

取組み報告書

令和7年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【株式会社QOLサービス多機能地域ケアホームありがとう介護支援ステーション】



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要



事業所名	株式会社QOLサービス 多機能地域ケアホームありがとう介護支援ステーション
施設種別	居宅介護支援事業所
職員数	5名
開設日	2004年1月
所在地	福山市春日町7丁目3番5号

取組みの流れ



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

取組みの流れ

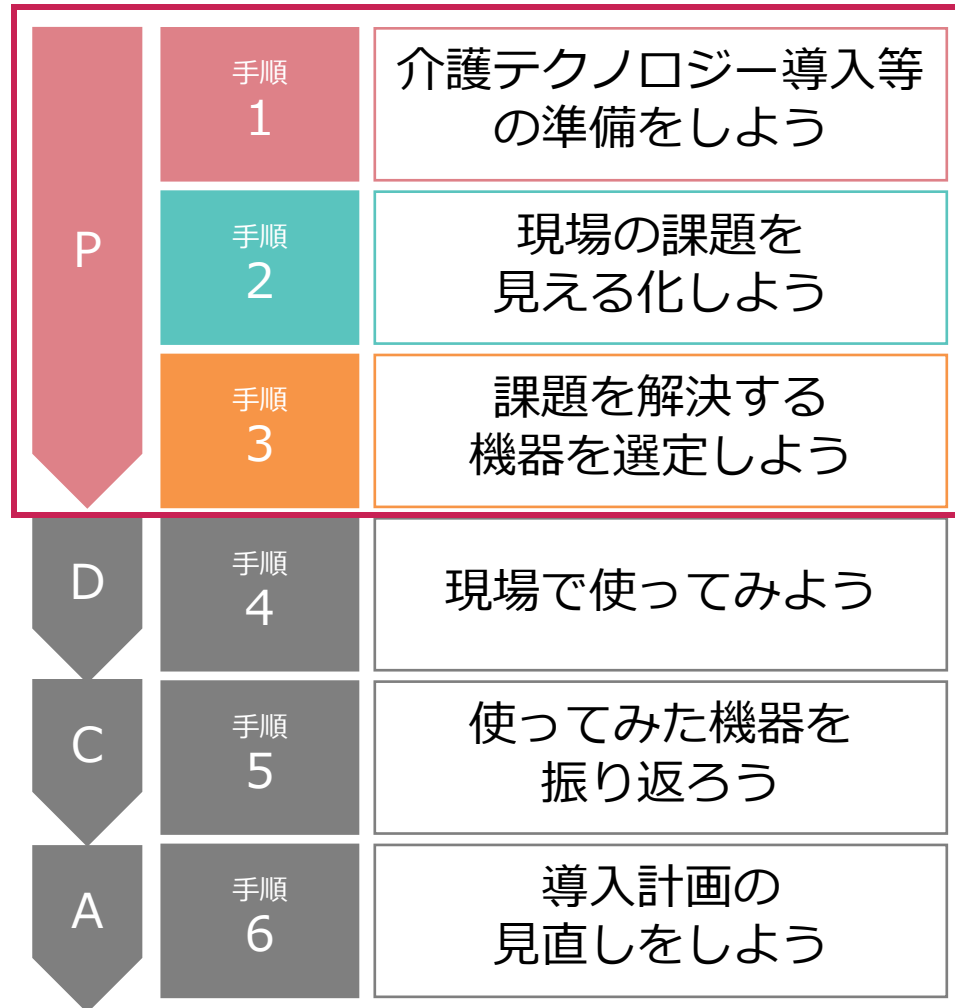
取組の流れ

具体的な取組み内容

P	手順 1	介護テクノロジー導入等の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">現在の課題の抽出、再確認。対象事業所、及び法人全体の状況を踏まえ、今後の取組みについて方向性を確認。ここから先やっていきたいことの優先順位について考察する。	7月 上旬
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう		
	手順 3	課題を解決する 機器を選定しよう		
D	手順 4	現場で使ってみよう	<ul style="list-style-type: none">抽出した課題解決に資する機器（システム）の情報を集約。内容を検証し、今後の取組みについて、方向性を再確認。確定させる。	8月 ～
C	手順 5	使ってみた機器を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">将来性を踏まえた機器（システム）の最終比較。	9月 中旬
A	手順 6	導入計画の 見直しをしよう	<ul style="list-style-type: none">管理者層及び現場スタッフを交えた最終協議。今まで検討した機器（システム）の再評価、検証を行い、導入機器の確定を行う。	9月 下旬

取組みの結果

取組の流れ

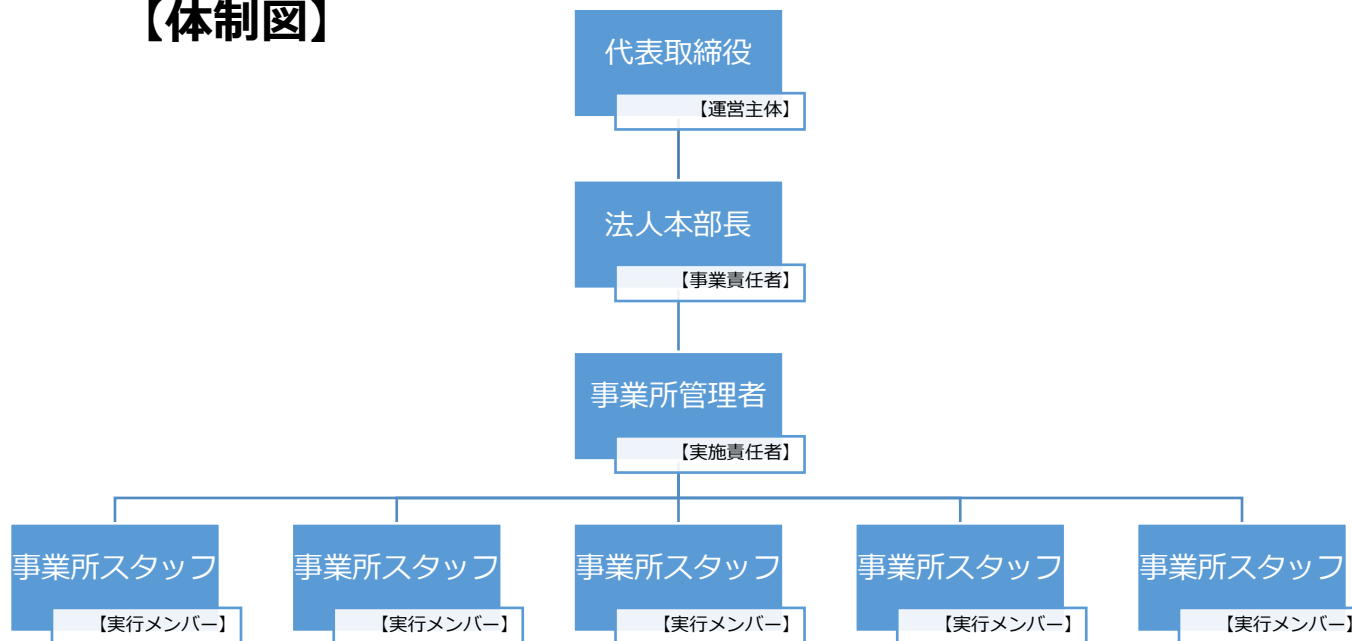


手順1 介護テクノロジー導入等の準備をしよう

実施内容

- 介護テクノロジー導入に係る首脳メンバー（法人本部、事業所管理者）から現状のヒアリング。
- 法人全体及び、対象事業所の状況把握。
- 現在の困りごとを抽出。
- 次いで優先順位を考察。

【体制図】



手順2 現場の課題を見える化しよう

実施内容

- 生産性向上の取組みを行う首脳メンバーからのヒアリングを実施。課題の抽出、取りまとめを行う。

見える化された課題

- 在宅勤務など働き方が多様化していく中で、オンライン会議の利活用を進めたい。
- AIの活用を行い、担当者会議等の議事録の作成や、ケアプランの作成等、負担のかかる「作業」の一部をオートメーション化していきたい。
- 書類へのサイン（同意）、押印も負担が多く、電子化していきたい。
- 紙のやり取りは限界があり、デジタルで保管をしていきたい。
- PCやタブレットでの入力も一部負担となっており、記録の音声入力も進めていきたい。

手順3 課題を解決する機器を選定しよう

今回選んだ解決したい課題

- バックオフィス業務の見直しを行うことで、業務負荷を軽減させる。
※優先順位は情報を精査し、最終決定を行うこととする。

その理由・背景

- 居宅介護支援の業務改善は、「作業」となるバックオフィス業務を見直すことが最優先。

課題に対する現状

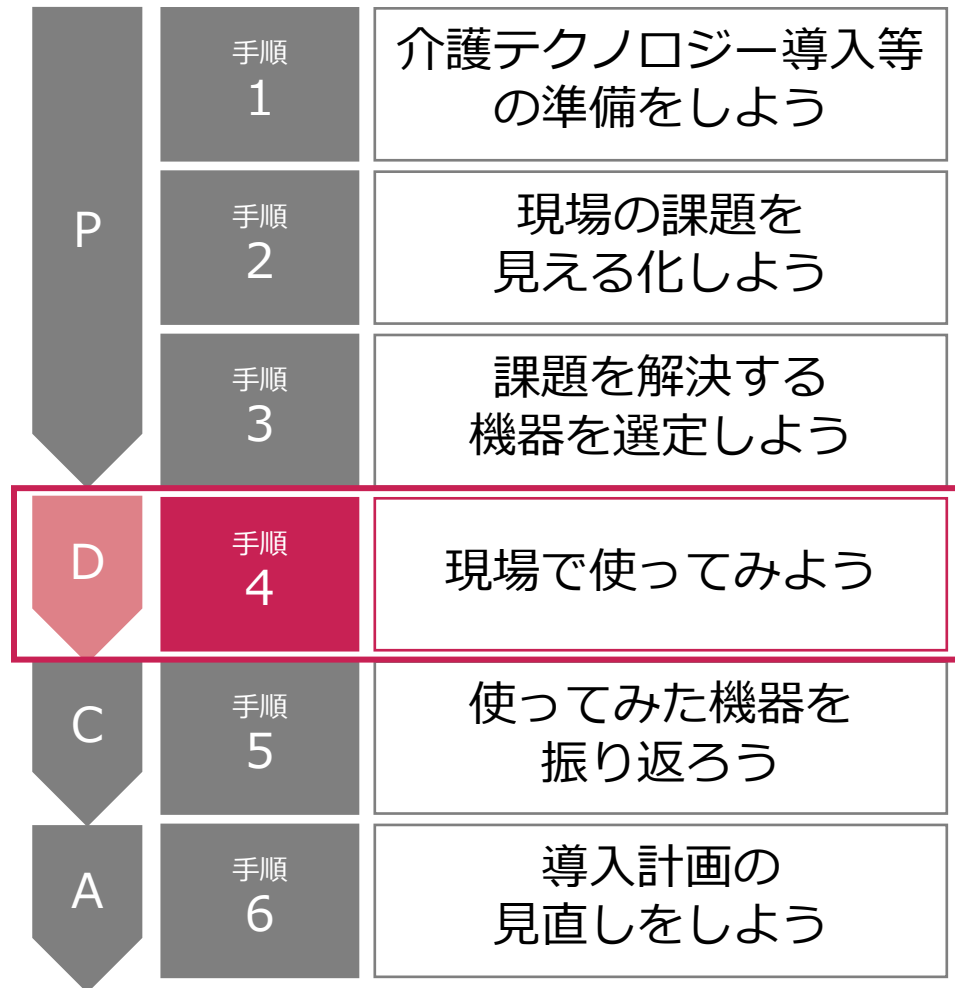
- 希望はあるが、本当に対応できるのか情報がなく、将来像を描くことができない。
- 法人で使用しているシステムがバラバラのため、法人内の連携にも手間がかかることがある。

解決した後の姿（目標）

- 「作業」が少なくなり、アセスメントやモニタリング、ご利用者様とのコミュニケーションに割く時間を増やすことができている。
- ケアチームや他事業所との連携がスムーズになっている。

取組みの結果

取組の流れ



手順4 現場で使ってみよう (情報収集)

実施内容

- 希望したことができるICT機器について、情報収集。
※AIケアプランや議事録のオートメーション化。電子同意等。
- そのうえで、基盤になるシステムについて、現状と比較検証を実施する。

検証機器 (ほのぼのNEXT) URL : <https://www.ndsoft.jp/product/next>

ほのぼのNEXT[®]

The screenshot displays the 'ほのぼのNEXT' software interface, which is a comprehensive system for home care management. The main window is titled 'ほのぼのNEXT Ver.3.01.0100' and features a navigation menu on the left with options like 'ケアマネ', '介護記録', '利用管理', and 'LIFE'. The central area shows a 'フェイスシート' (Face Sheet) for a user named '工藤 基紀' (Kudo, Keiki), including fields for name, gender, age, and address. Below this, there's a detailed view of the user's care plan, including a table of service dates and status. The table has columns for dates and various service types, with status indicators like '未' (Not) and '済' (Completed). On the right side, there's a '全住民全削除' (Delete All Residents) dialog box with a list of residents and their details.

利用者番号	氏名	性別
1	工藤 基紀	男
2147453847	倉嶋 由紀	女
80	小山 佳輝	男
54	平岡 隆一	男
57	水川 淳子	女
160	石川 健太	男
116	伊藤 彩夏	女
105	岩木 愛実	女
149	岩野 幸枝	女
53	大島 良子	女
184	織田 将克	男
109	岸谷 勉史	男
他		

取組みの結果

取組の流れ



手順5 使ってみた機器を振り返ろう

検証した結果（確認方法）

- 今後やっていきたいこと（情報連携やペーパーレス及び音声入力等）を踏まえ、整備するシステムについて最終決定を行う。
- 意思決定については、現場職員の反応を踏まえ、決定する。

集まった現場の声

- 新しいシステムに変更することに抵抗は大きいですが、導入することにより今までできなかったことができたり、書類作成業務の負担軽減が期待できると考えられる。
- 同システムを使用する法人内事業所との連携にも大きく期待できる。
- 新しいシステムを使いこなす自信はないが、まずやれることから始めてみたいと思う。

取組みの結果

取組の流れ

P	手順 1	介護テクノロジー導入等の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	課題を解決する 機器を選定しよう
D	手順 4	現場で使ってみよう
C	手順 5	使ってみた機器を 振り返ろう
A	手順 6	導入計画の 見直しをしよう

手順6 導入計画の見直しをしよう

振り返りを踏まえた今後の活動

- システムの機能、今後の拡張性を踏まえ、導入に向けた法人内調整を行う。

全体の総括（導入チームから）

- ICT活用推進はしないといけないと分かってはいても、どこから始めたらいいか分からず進まなかったが今回、専門の方にアドバイスを頂くことで、現在の課題を抽出し、何ができるか考える良い機会になった。大きな一歩を踏み出せたと思う。

まとめ

全体を通してのコメント（アドバイザーより）

この度は、令和7年度福山市介護職員等負担軽減アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。
在宅サービスの現場における生産性向上の取組は、一事業所では限界がある中、率先してお取組みいただくことで、その波は広がっていくことと思います。
まずは法人内の連携を盤石にする。その成功体験をもとに、外部事業所にも連携を促していく。大変有意義なお取組みであると考えます。
在宅サービスでなかなか広がらない「生産性向上」の取組みについて、是非フロントランナーになっていただければ幸いです。
引き続きよろしくお願いたします。



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック